



子どもの国づくりだより

vol.1 平成24年8月発行



このたよりは、「子どもの国づくり推進協定」を通じ脱少子化県民運動に参加されている皆様の取組等をご紹介しますものです。

「子どもの国づくりだより」発行に寄せて



脱少子化ウェーブを巻き起こす行動県民会議
(ベビーウェーブ・アクション)会長
秋田県知事 佐竹 敬久



皆様、こんにちは。ベビーウェーブ・アクション会長の佐竹敬久です。

皆様には、ベビーウェーブ・アクションとの間で「子どもの国づくり推進協定」を結んでいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から少子化克服のため、地域や職場で取り組んでいただいていることに、心から感謝申し上げます。

さて、平成22年度からスタートした「子どもの国づくり推進協定」ですが、締結数も既に2,000件を超えています。

これは、脱少子化の意識が着実に広がっている証しであり、最初は小さなことであっても、その効果は徐々に周りに波及し、少子化克服の運動の輪がさらに広がっていくものと期待しております。

このたび、協定を結んでいる皆様の取組をはじめ、

ベビーウェーブ・アクション会員や県からの情報などをお知らせし、県民運動としての意識を高めるため、新たに「子どもの国づくりだより」を発行することとしました。

職場・団体内などで回覧していただくなど、改めて少子化について考える機会として活用していただきたいと思っております。

県では、今後も、若者の県内定着、結婚支援、全国トップレベルの子育て支援など、ライフステージに応じた総合的な対策を全力で進めてまいります。

ベビーウェーブ・アクションのキャッチフレーズ「子育てを楽しむ秋田に輝く未来」を合い言葉に、子どもの笑顔があふれる「子どもの国 秋田」を目指して、ともに脱少子化の大きな波を起こしていきましょう！

ベビーウェーブ・アクションとは・・・

行政、経済界、マスコミや子育て支援団体などの59団体が構成され、それぞれの立場から少子化克服のための活動に取り組んでいます。

また、「あきたの脱少子化県民運動」の通称でもあります。



子どもの国づくり推進協定

◆協定締結件数 2,038件
(平成24年7月31日現在)

ベビーウェーブ・アクション参加者が増えてます！行動の輪がどんどん広がりますように・・・

ベビーウェーブ・アクション会員から

秋田県商工会連合会

本会では、今年度、県の委託を受け、企業における仕事と育児・家庭の両立支援について、普及促進等を行っています。5名の次世代育成支援員を配置して、従業員100人以下の企業を個別訪問し、働きやすい職場環境づくりのため、両立支援のメリットや、県や国の事業をご紹介します。

また、婚活を応援する「あきた結婚支援センター」事業のPR活動をはじめ、出会いイベントや婚活応援セミナー等も積極的に開催し、各地域での出会いの場づくりに取り組んでいます。

企業環境が厳しさを増している時代ではありますが、若者の県内定着、結婚しやすい環境づくり、子育て支援の充実など、県民を挙げた脱少子化運動に少しでも貢献できるよう、積極的に取り組んでまいります。

少子化対策応援
ファンド助成団体

一般社団法人 秋田県助産師会

助産師は、妊産褥婦とその家族に、妊娠から出産の各時期に保健指導をし、親になる準備や母乳育児を勧めるなど、性と生殖に関する健康や育児におよぶ広い分野でサポートしています。

県内の分娩施設の集約化により、妊婦さんが出産や育児の知識を得る機会が十分あるとはいえません。また、祖父母世代も、かつて常識とされた「ミルクの方が大きく育つ」「抱き癖がつくから必要以上に抱っこしない」といったことが今では通用せず戸惑いがあるようです。

そこで、本会では、ファンド助成を活用して「楽しい子育て・孫育て講座」を開催します。安心して妊娠、分娩、産褥期を迎え、家族も育児への心理的、肉体的な負担を軽減でき、「育児は大変だけれども楽しい」という期待感が高まる一助になることを願って取り組んでいます。



楽しい子育て・孫育て講座



来所相談

また、本会で取り組んできた子育てや女性の健康問題などの電話・来所相談は、今年度から秋田県女性健康支援センター事業により、電話相談時間を拡大し、メール相談も始めました。思春期以降の幅広い女性の健康上の問題に対応しながら、望まない妊娠を避けることや、女性の健康上の問題について相談に応じます。

私たち助産師が「妊活力」と「育児力」が高まるようなサポートをします。

こんにちは!あきた結婚支援センターです (第1回)

ハッピーレポート

最近、一枚のハガキが当センターに届きました。差出人は当センターのマッチング登録会員だった二人。

「私たちは〇月〇日に結婚式を挙げ、新しい人生の幕を開けました。」と印刷されていました。そして、手書きで「ありがとうございました。今後センターで多くの方が結婚されるよう祈っております。」との添え書きが。

このようなハガキ自体は珍しいものではないですが、私たちセンター職員にとってこの一枚は幸せ度満点のハッピーレポートでした。職員一同、心から祝福の拍手を送りました。

当センターでは、個人向けとして、お見合いをするための「マッチング登録」のほか、出会いイベント情報を配信する「メルマガ登録」の制度もあります。また、多人数対象の事業としては、飲食店などの出会いイベント開催も促進しています。ほかにも結婚サポーターや会員団体の仕組みもあります。

こうした機会を利用して愛が芽生え、大事に生まれ、そしてハッピーレポートがどんどん届けられますように祈っています。読者の皆さんの応援もよろしくお願ひします。(あきた結婚支援センター長 七尾 育英)



● 子どもの国づくり推進協定締結団体から ●

「地域ぐるみによる楽しい環境づくりを」 小豆沢青年会

ファンド
助成団体

小豆沢青年会は、鹿角市八幡平地区小豆沢自治会内の若者(半数以上が子育てに奮闘中の父親)達が、自治会運動会の運営や虫送り、七夕、盆踊りなどの活動をしています。

核家族が増える現代社会、今こそ地域ぐるみの子育てや子どもたちのための楽しい環境づくりが不可欠です。

そこで昨年、「まずは自分たちの地域の子育て力の向上を」とファンド助成を受け、地域のお年寄りとともに、子どもたちに昔遊びを体験させる事業を実施し、好評でした。本年度も少子化対策イベントを企画！家族へのラブレター、会員手製「芋のこ汁」の提供、本の読み聞かせなどを通して、「家族や地域の絆」の再確認とともに、子育てに熱心な「イクメン」の姿を紹介し、未婚の会員や地域の若い世代が家族、結婚、子どもの素晴らしさを実感する機会を目指します。

今後も地域を巻き込んだ事業の継続を検討しており、この取り組みが微力ながら少子化対策の一助につながればと考えています。

りんごちゃんひろば JA秋田ふるさと

当JAでは、「地域貢献」「次世代対策」の観点から、平成22年度より「子育て支援事業」に取り組んでいます。平鹿町醍醐地区の旧金融店舗を改装し、「りんごちゃんひろば」を開設。お父さん、お母さんと子供、おじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんが無料で利用できるフリースペースとなっています。

平成24年5月末現在、登録者527名、延利用者数11,785名、一日平均20名以上の親子が利用しています。



運営は、横手市平鹿町子育て支援センターとの協働で、更に「老人と子供の福祉エリア」を目指し、隣接するJA老人福祉施設とタイアップした運営を図っています。

また、JAでは農業体験や郷土料理の提供などの食と農に関するイベントを随時開催し、「若い世代」へ横手農業を啓蒙するための活動も行っています。

だれもが小さな命を救えるように 「赤ちゃん子どものための救急教室」 子どものファーストエイド普及協会アクワイ

ファンド
助成団体



当会は、乳児と幼児の救命コースを開催できる現役インストラクター運営の子どものファーストエイド(応急手当)を普及させる会です。

本教室は、会発足の2007年から100回以上、乳幼児の親や育児サークル、保育所や児童センター等で開催、受講者は1000人を超えています。

救命法は知識を学ぶだけでなく、マネキンを使っての体験が大切です。胸部圧迫の強さや速さ、人工呼吸の際の息の吹き込み具合などを体験し、初めてそのスキルを身に付けることができます。

講習は小学生以上どなたでも参加頂けるよう、数時間の練習でも「気軽に、楽しく、ためになる！」をモットーに行っています。

「いざという時に自信を持ってその命を救えるように…」今後もより多くの方とその意識を高め合い、子どもたちがより安全に健全に育つよう、お手伝いして参りたいです。

秋田県社会保険労務士会から (第1回)

こんにちは！特定社会保険労務士の船木一枝と申します。

現在、私は2歳の息子を育てる母親でもあります。子供が産まれてみてわかったこと、それは子供を育てるということは想像以上に大変だということでした。親の都合に関係なく、夜泣きをしたり病気になるったり…子供に振り回されっぱなしの毎日です。子供の病気の菌は強いようで、子供から病気をうつされると私もフラフラになります。

自分自身の経験を通して、仕事と育児・家庭の両立の難しさを実感しています。母親が働き続けるには、周囲の理解とサポートなしには難しいです。特に職場の理解と父親の協力は欠かせません。

子育ては大変ですが、子供を通して未来を考えたり、とてもワクワクして楽しいです。子供のためにも仕事を頑張ろう、社会にも貢献しようという気持ちになります。

人を育てることは将来への大きな投資になります。めぐりめぐって、その結果は、子供の有無に関係なく社会全体、自分たちに跳ね返ってきます。

国や県では、子育てを応援する企業に対して、多数の支援策を用意しています。是非、そういった制度を活用して、1社でも多くの企業が、明日の秋田の姿を考え、地域社会のためにも少子化対策に協力し、子育てしながら働き続ける従業員をサポートしてくれることを願っております。

仕事と家庭の両立支援奨励金について

●育児・介護等離職者再雇用コース
結婚・出産・育児・介護等による退職者を同一の企業で再雇用した場合、事業主へ支給します。

【支給額】

- ①正社員としての再雇用 50万円
- ②正社員以外としての再雇用 30万円

●管理職休業等取得コース

管理職が介護や育児のために次のいずれかを利用した場合、事業主へ支給します。

- ①介護休業を10日以上取得
 - ②介護のための短時間勤務を1か月以上利用
 - ③育児のための短時間勤務を1か月以上利用
- ※③は、男性管理職のみ

【支給額】1事業主につき 20万円(1回限り)

●男性従業員育児休業取得コース

男性従業員が連続した10日以上の子育て休業を取得した場合、事業主及び休業取得者へ支給します。

【支給額】

- ①事業主奨励金 1事業主につき 20万円
- ②育児休業取得者奨励金
 - ・短期休業取得者(10日以上) 5万円
 - ・長期休業取得者(90日以上)20万円

仕事と家庭の両立支援研修会について

仕事と家庭を両立しやすい職場づくりに向け、仕事と家庭の両立や男性の育児参加のメリット、両立のための支援制度などについて企業内研修会を無料で開催します。

※1時間程度でわかりやすく説明します。

※社内の会議室や食堂などどこでもかまいません。

【お問い合わせ先】

少子化対策局 TEL 018-860-1249

統計・データ

～最新の少子化関連データをお知らせします～

平成23年人口動態統計(概数)より

◇出生数 6,658人

(平成22年の6,688人より 30人の減少)

◇合計特殊出生率(1人の女性が一生に生む子どもの数に相当) 1.35

(平成22年の1.31より 0.04ポイントの増加)

◇婚姻数 4,058組

(平成22年の4,281組より 223組の減少)

健康推進課から

不妊治療しながら働き続けるために、
事業者のみなさまの御理解と御協力をお願いします。
～2人で進もう、2人を支えよう～



現在、7組から10組に1組の御夫婦が不妊症と言われております。

秋田県では、不妊に悩む御夫婦の相談窓口として、不妊とこころの相談センターを設置しているほか、経済的負担の軽減を図るため、特定不妊治療費の助成を平成24年度から県単独で、1回あたり20万円、年3回までに拡充し、不妊治療に取り組みやすい環境づくりの充実を図っております。

不妊治療では、時に、連続して通院しなければいけないことがあるため、やむを得ず会社を続けて休むことがあります。御夫婦の中には、仕事と治療の両立に悩んだ末、不妊治療をあきらめたり、仕事を辞めてしまう方がいらっしゃいます。

治療しながら働きやすい職場環境づくりに、みなさまの御協力をお願いします。

不妊の原因
と割合

男性と女性の割合は、同じです。



不妊とこころの相談センター
(秋田大学医学部附属病院)

相談先があります。

体外受精、顕微受精の治療について
1回20万円まで、年3回、5年間

助成があります。

【お問い合わせ先】 健康推進課 TEL 018-860-1426

美の国 コウトリ

検索

発行元:ベビーウェーブ・アクション事務局

(秋田県企画振興部少子化対策局) お問い合わせ先:018-860-1248

ベビーウェーブ・アクションWEBサイト <http://common.pref.akita.lg.jp/babywave/>

ベビーウェーブ

検索